

つつじヶ丘 歌碑めぐり

今も愛される、つつじヶ丘発祥の歌



住職作曲の「思い出のアルバム」 福増山 常楽院

常楽院は、もとは台東区上野池ノ端にありましたが、関東大震災で焼失後、昭和の初め（昭和七年頃）に調布に移りました。

寺の住職であった第五十二世本多慈祐（鉄磨）氏は作曲家としても活動し、近隣の滝坂小学校の校歌など、生涯で手掛けた曲は二千曲にも及びます。中でも、♪いつのことだか おもいだしてごらん♪という歌詞の「思い出のアルバム」は、幼稚園・保育園の卒園曲として、現在も親しまれています。慈祐住職は神代幼稚園を創設し、園長を務めていたことから、その中で育てられた有志の方々により一九九六年、没後三十年を記念して常楽院境内に歌碑が建てられました。

最近では二〇一七年に京王線つつじヶ丘駅の列車接近メロディーに、この「思い出のアルバム」が導入されました。

[住所] 調布市西つつじヶ丘4-9-1
[交通] 京王線 つつじヶ丘駅南口徒歩約3分
[Instagram] [instagram.com/jourakuin.chofu](https://www.instagram.com/jourakuin.chofu)
[Tel] 042-484-0900



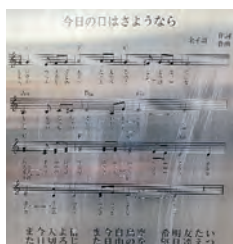
第五十二世住職 本多慈祐氏（作曲家名 本多慈祐）▶

児童館から誕生した「親子で歌い継ぐ歌」 つつじヶ丘児童館

「今日の日はさようなら」は、一九六六年に生まれました。つつじヶ丘児童館で青少年活動をしていた、ボランティアグループの若者たちが、つどいの最後に「また会おう」の思いを込め作詞作曲した金子詔一さんのギター伴奏で声を合わせて歌った曲です。その後この歌は、全国に知られるようになり、「親子で歌い継ぐ日本の歌百選」に選ばれ、今も多くの人たちに愛唱されています。

この歌を後世に歌い継いでいくことを目的に、市民による「今日の日はさようなら歌碑建立委員会」が設立され、二〇一八年につつじヶ丘児童館にモニュメントが設置されました。鉄琴を左から順に鳴らすと、「今日の日はさようなら」のメロディーになります。

この曲は京王線柴崎駅の列車接近メロディーにもなっています。



[住所] 調布市西つつじヶ丘3-19-1
調布市つつじヶ丘児童館
[交通] 京王線 つつじヶ丘駅北口徒歩約3分



今日の日はさようなら（作詞・作曲 金子詔一氏）